



茶店のマスターをしていた頃は、カウンター越しにお客さんの話を聞くのが仕事で、毎日が修行のようでした。本当に色々な人がいるのですよ。僧侶としては大変貴重な時間でした。それに喫茶店でお金を稼ぐことの大変さといったら、私には向いていないことはすぐに分かりました。それでもコーヒーにミックスジュース、モーニングサービスにカレーライスなど、坊主とともに悪戦苦闘した日々は良い思い出です。

気軽に休憩所を利用していただく為にもう一つ、ストーブを置きました。丸くなって火にあたれるストーブで、上にヤカンを置いています。なんとなく懐かしい雰囲気です。

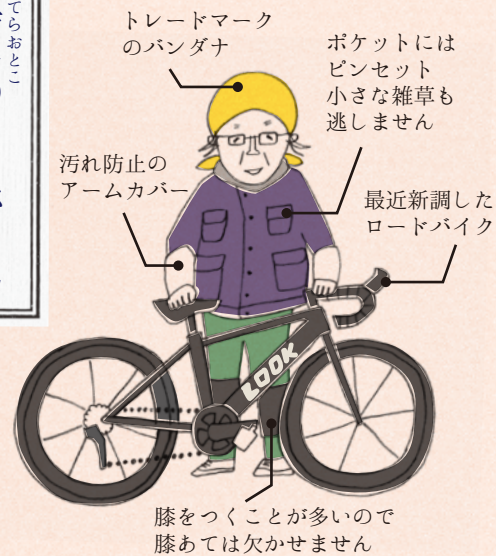


ければ、というねらいがありますが、いかがでしょうか。小さなお子さまには危険なので、上がテーブルになったストーブガードを付けてます。少なくとも住職は和んでおります。

まだまだ不十分ですが、他にも少しずつ充実させていきたいです。「墓とも」という言葉もありますが、ここに集う人はみな同じ墓地に眠る仲間かもしれませんからね。



寺男のマトバさん



境内で一度は出会ったことがあるでしょう。彼はマトバさんといひまして、善称寺の寺男です。寺男とは大辞林に「寺で雑役をする男」とありますが、マトバさんには主に植物の管理や境内の清掃をお願いしています。最近では名家のお墓の花筒の水を替えたり、枯れた墓花を間引いたりしてくれているので、お墓の花が長持ちするようになりましたね。みなさんお気づきでしょうか。

マトバさんの趣味はロードバイクと山野草、昔は蝶々の採集もしていたそうで、今でも蝶々をみると「あ、ルニシジミや」などつつぶやきながらいつまでも目で追っていますね。ロードバイク歴は長く、泉南方面から高野山まで走りまくってます。(とうに還暦を過ぎている!)

最近の彼の口ぐせは「オレは将来ボケてボケてボケ倒して人に迷惑かけまくって死ぬんや!」です。誰もがピンピンコロリ、人に「負担・迷惑をかけたくない」と考える昨今、素晴らしい発言だと思いませんか(笑)いつからそうなったのか、老化を迷惑とせず社会の仕組みでひょうひょうと受け止めていくような、そんな国であればいいなと考えさせられます。

手すり付きの下駄箱が設置されました。



今まではご法事の時にたくさん靴が本堂前に並んでいましたが、これからは下駄箱に収納していただけます。しっかりとした手すりが付いていますので安心してお上りください。この手すり付き下駄箱の設置にはご寄付をくださった方があります。心より感謝し、お念仏の道場である本堂がみんなに愛される場所となることを願っております。